
死の意味を知らない馬鹿共へ（論述）

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死の意味を知らない馬鹿共へ（論述）

【Nコード】

N48360

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

『死ぬ気になったら何でも出来る』これは、両刃の剣。

(前書き)

以前書いた、乱雑な文章を出来るだけ、丁寧に論述化してみました。

『死ぬ気になったら何でも出来る』

これを真顔で言う大人がこの世には多い。

自殺願望者が絶えない状況下でありながら、上記の言葉を発する大人がいる。

確かに、死ぬ気で頑張り何かをやり遂げた者も少なく無いだろうと思う。

しかし、それはこの世に生を成し、死への道など一切の關係を持たない者達の事である。

この者達の言う『死ぬ気になったら』というのは、《がむしゃらに》《ひたすらに》という生きる希望、もしくは死ぬ事を根底に入れずに考えた結果である。

しかしながら、一概には言えないかも知れないが、自殺願望者にこの言葉を投げ掛けるのは危険極まりない行為である。

何故なら、自殺願望者に《がむしゃらに》《ひたすらに》《何を行えと言っているのであろうか。

私もかつてそこにいた。我が命を断ち切りたくて仕方ない時があった。

その時、この『死ぬ気になったら』という言葉が投げ掛けられたのである。

この言葉、生者には生きる希望と成り得るのかも知れないが、死を目指す者には、「早く死ぬ」と言われているのと同等の意味を持つてしまうのである。

これを見た方々に警告します。自殺願望者にこの『死ぬ気になったら』という言葉は、火に油だと思って頂きたい。

彼ら、彼女らはこの世の生の楔を断ち切り、『解放』『自由』『逃避』『無』『帰空』『虚無』等を願っているのだから。

彼ら、彼女らにもし出会う事があったら、こう言っておいて下さい。「お疲れ様。今までよく頑張りました」と。

それが一番の救いではないでしょうか？ まあ、何度も申しませんが、一概には言えませんけど…。

(後書き)

命は難しいモノです。が、その比重は誰にも計れません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4836o/>

死の意味を知らない馬鹿共へ（論述）

2010年10月24日07時07分発行